

# 1.冠婚葬祭と情報化に関する研究

はじめに

山田 慎也

本論文集は、冠婚葬祭の近代化について、情報化という観点からその実態を明らかにすることを目的としたプロジェクト「冠婚葬祭と情報化に関する研究」の最終成果報告書である。

当初、このプロジェクトを計画したときには、新型コロナウイルス感染症が流行し、人々の直接的な接触が大幅に制限されていた。そのため冠婚葬祭などの儀礼が従来のように実施できなくなっていた時もあった。当時注目されたのが、デジタル技術を利用したインターネット上のリモート結婚式や葬儀、法要などであった。しかし、これらのリモート儀礼がコロナ禍後、普及したかという点、必ずしもそうではない。

しかし、情報化という観点を見だし、本プロジェクトとして、冠婚葬祭の歴史と現状に取り組んでいくことによって、今まであまり気づくことのなかった重要で本質的な課題を多面的に見いだすことができ、新たな発想を持って分析を進めていくことができた。その具体的課題と成果については、各メンバーの報告をご覧いただきたい。しかし、これらの報告で課題がすべて解決されたわけではなく、研究の深化によってさらなる検討すべき課題をさまざま見いだしている。

その中の大きな課題のひとつが、冠婚葬祭とメディアの関係である。人々が冠婚葬祭を実践し受け継いでいくなかではメディアの役割は大きく、また社会の変化によってメディアの特質も変化している。今後は、この課題を含むさまざまな課題について、継続的に取り組んでいきたいと考える。

最後に、一般財団法人冠婚葬祭文化振興財団 冠婚葬祭総合研究所および互助会保証株式会社には、多大なる支援を受けたことを多謝し、ここに記すものである。